

母島全島地図



北港 ～深い入り江で波が静か。磯釣りも楽しめる～



■アクセス

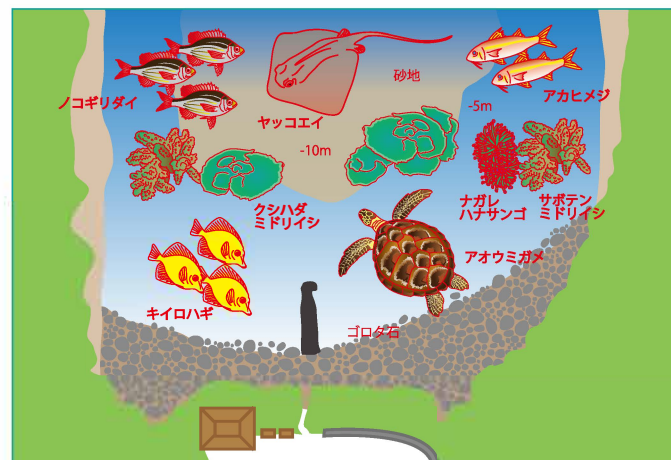
- ・沖港より 徒歩 約2時間
- ・沖港より 船 30分

■付帯施設

- ・P、公共トイレ、休憩所
- ・衛星公衆電話 ※100円硬貨のみ使用可

■見どころ

母島最北端の入り江。海岸は玉砂利。入り江の両サイドは崖で、その地形は水中まで続き、見事なサンゴ礁が形成されています。スズメダイやチョウチョウウオの仲間、ミナミイサミの群れなどを見ることができ、中心の砂地にはテーブル状サンゴのついた岩が点在し、幻想的な風景が広がります。アオウミガメの遊泳がよく見られるほか、大型の回遊魚に遭遇することもあります。スノーケリング、磯釣りのポイントです。



東港防波堤 ～釣りや飛び込みのポイント～



■アクセス

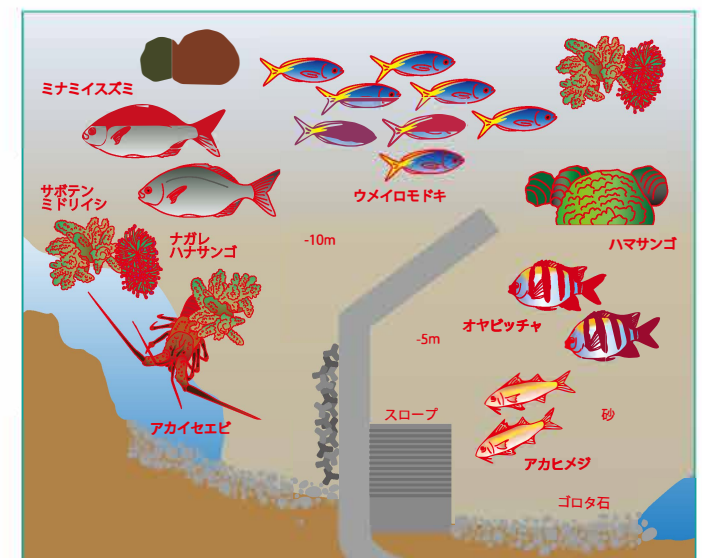
- ・沖港より 徒歩 約2時間
- ・沖港より 船 30分

■付帯施設

- ・公共トイレ

■見どころ

母島の東に広がる大きな湾。海は年間を通して穏やか。東港は捕鯨基地があったため当時の構造物の一部が海底に沈んでいます。そこに集まる魚は種類が豊富ですが、防波堤内の透明度はやや劣ります。浜から延びる防波堤は釣りや飛び込みの人気ポイント。泳ぐときは防波堤の釣り人に注意しましょう。



脇浜 ～集落から近く、景観が美しいビーチ～



■アクセス

- ・沖港より 徒歩 5 分

■付帯施設

- ・P、トイレ、休憩所、公園

■見どころ

はじま丸が入港する沖港から徒歩数分の母島一大きな砂浜です。浜にはグンバイヒルガオが群生し、美しい景観を楽しむことができます。アオウミガメの産卵シーズンには、隣接する漁協のウミガメ保護増殖施設で産卵の様子や子ガメが海へ帰る姿を見ることがも。水中は砂とサンゴが入り混じるため透明度はやや低いですが、生物の種類が豊富です。ゴールデンウィーク頃にはネムリブカが繁殖のために浅瀬に多数集まる様子が観察できます。



南京浜 ～海域公園の美しい海～



(特別保護地区・海域公園)

■アクセス

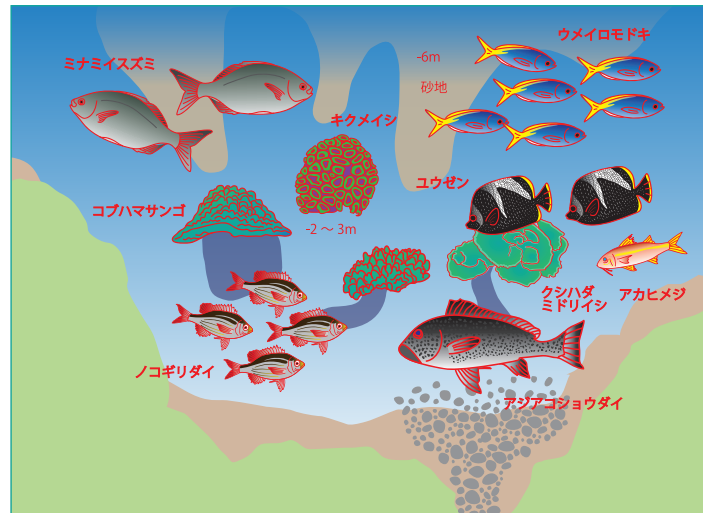
- ・沖港より 徒歩 35 分
- ・沖港より遊歩道入口まで 徒歩 10 分
- ・入口から 徒歩 3 分

■付帯施設

- ・P (遊歩道入口)

■見どころ

御幸之浜同様、国立公園の特別保護地区および海域公園となっています。隣の御幸之浜まで泳いで行くこともできます。サンゴ礁の広がるスノーケリングポイント。少し沖に泳ぐと砂地の一角があり、ウメイロモドキの群れが白い砂浜に色彩を与える様子はすばらしいものです。



御幸之浜 ～集落近くのスノーケリングポイント～



(特別保護地区・海域公園)

■アクセス

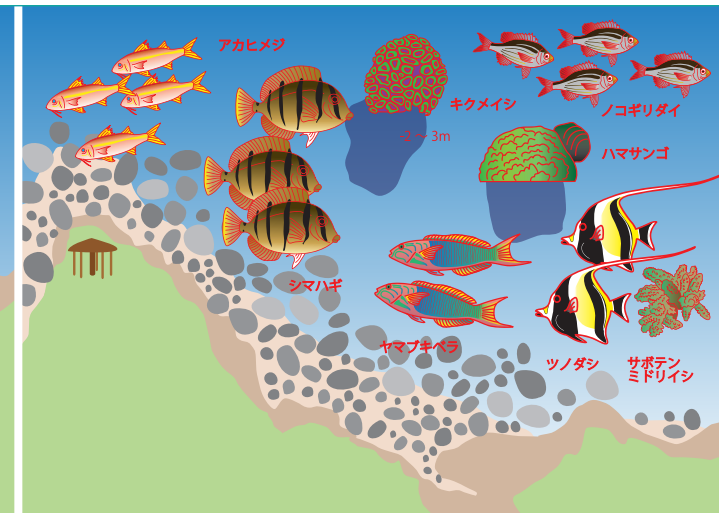
- ・沖港より 徒歩 30 分
- ・沖港より遊歩道入口まで 徒歩 10 分
- ・入口から 徒歩 5 分

■付帯施設

- ・休憩所

■見どころ

1972 年の昭和天皇行幸の折、ここで生物採集されたことからこの名があります。貨幣石と言われる大型有孔虫の珍しい化石が見られ、国立公園の特別保護地区および海域公園となっています。浅い水深に穏やかな水面、サンゴ礁の広がる絶好のスノーケリングポイントで、サンゴ礁を棲家とする熱帯魚が多く見られます。12 月から 5 月頃には沖にザトウクジラを見ることができます。



石次郎海岸 ～小さな浜でプライベートを楽しむ～



■アクセス

- ・沖港船客待合所より 徒歩 15 分

■見どころ

沖港船客待合所から湾を挟んで向かい側にある小さな浜です。母島では珍しい白砂のビーチです。まるでプライベートビーチのような空間を楽しむことができます。

1 万年青浜 ～南崎ロータリーから一番近い浜～



■見どころ

昔オオハマモトが群生していましたが、今はゴロタ石の浜になっています。

2 蓬莱根 ～白い砂浜が美しい～



■注意事項

磯伝いに歩いていくのは危険です。潮汐表をしっかりと調べて、満潮時に泳いで海から行きましょう。

■見どころ

南崎遊歩道の途中にある分岐から海岸へ出て、さらに北へ泳ぐと白く小さな砂浜があります。透明度の高い海に様々な熱帯魚が群れています。

3 ワイビーチ ～海中はまるでドロップオフ～



■見どころ

ホワイトビーチが訛ってワイビーチとなったと言われているように、白い砂浜の海岸。あまり人が訪れないのでプライベートビーチのようです。

1 万年青浜

■アクセス

- ・都道最南端から北へ 徒歩 10 分
- ・南崎遊歩道入口から南へ 徒歩 10 分

2 蓬莱根

■アクセス

- ・都道最南端遊歩道入口から 徒歩 約 35 分
- ・南崎遊歩道にある分岐点から 徒歩 約 10 分

■注意事項

磯伝いに歩いていくのは危険です。満潮時に泳いで海から行きましょう。

3 ワイビーチ

■アクセス

- ・都道最南端遊歩道入口から 徒歩 40 分
- ・南崎遊歩道にある標識から 徒歩 5 分

4 南崎

■アクセス

- ・沖港より 徒歩 1 時間 50 分
- ・沖港より万年青橋遊歩道入口まで 徒歩 13 分、入口から 徒歩 60 分
- ・沖港より都道最南端ロータリー遊歩道入口まで 徒歩 15 分、入口から 徒歩 45 分

4 南崎 ～サンゴ礁が美しい遠浅の海～



■注意事項

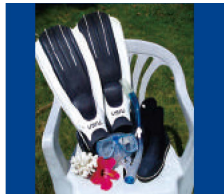
潮の流れが急なので、丸石（岩）より沖には出ないこと。特に満ち干き時には強い潮流が生じるので沖には出ないようにしましょう。

■見どころ

タコノキとビロウに囲まれた遊歩道を歩くと母島最南端の南崎海岸に出ます。サンゴ礁の浅い海には様々な熱帯魚が見られます。

1. 波やうねり、潮の流れに注意しましょう。
2. 体調が悪い時は無理せず、泳ぐのは控えましょう。
3. 岩やサンゴでケガをしないようマリングローブやブーツを用意しましょう。
4. 日差しが強いので日焼けに十分注意しましょう。特に首や背中、耳の裏等の日焼け対策を万全にしてください。
5. 海岸と自分の距離に注意し沖に出すぎないようにしましょう。
6. 海で泳ぐ時は出かける前に宿の人に行き先と帰宅時間を伝えましょう。
7. 安全のため2人以上で泳ぎましょう。
8. むやみに海の生き物に触らないよう注意しましょう。
9. ごみは持ち帰りましょう。
10. シャワーがあるビーチは、脇浜だけになります。
11. スノーケル 3 点セット（スノーケル・フィン・マスク）のレンタルは、**ダイブリゾート 母島**にお問い合わせください。

ダイブリゾート 母島
☎ 04998-3-2442



12. ご不明な点、困った事などございましたら、**母島観光協会**へお問い合わせください。

一般社団法人小笠原母島観光協会

〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地

tel 04998-3-2300

fax 04998-3-2200

http://www.hahajima.com

e-mail info@hahajima.com



■ユウゼン

日本固有種の魚で、八丈島～小笠原諸島のみに生息している。小笠原では最もポピュラーに見ることができる。



■ナンヨウスダイ

サンゴ礁のみに生息する。あごの力が強くサンゴを好んで食べる。排泄物はさらさらした固形の為荒波に揉まれ岸辺に溜まりビーチを形成する。



■アカハタ

島名で「アカハ」と呼ばれている。唐揚げやお味噌汁など島の郷土料理に使われる。本土では高級魚として扱われる。



■シマハギ

浅場ではポピュラーに見られる。大群で餌を食べる姿など見ることができる。



■ミソレフグ

本来黒い体に白いドット柄だが小笠原のみ黄色い体に黒のドット柄の変色個体が生息している。



■ミツカドパイフウニ

棘は太く三稜形をしているのが特徴。小笠原では7月1日～8月31日まで捕獲してはいけない。工芸品などに使われている。



■アオリイカ

本土では大きくても2キロ程だが小笠原では更におっきくなる。春時期産卵の為浅瀬にやってくる。秋には成長した子イカが防波堤からでも見れる。



■ネムリスカ

浅瀬に生息する鯨で背ビレと尾ビレの先端に白い模様が付いている。昼間は岩陰などで眠っていてさわることも出来るほど比較的大人しい。



■モンダルマガレイ

体調40センチにもなる大型種。岩肌や砂の模様と同化しているため見つけるのが困難。小笠原で見られる唯一のカレイ。



■アライボヒトデ

日本では小笠原・沖縄・奄美大島に分布し浅瀬～水深50mに棲む。体のイボは稀に半球体ではなく棘になっている固体もいる為注意。



■ガンガゼ

細長い棘は鋭く、人の皮膚に容易に刺さる。棘の表面には釣り針の返しのような形をしている為皮膚内部に残りひどく痛む。岩陰に潜んでいる為要注意。



■モンガラカワハギ

日本広域に分布するが小笠原や沖縄が最も見られやすい。尾鰭には子棘がある。気性が荒く下手に近づく攻撃される可能性がある。



■タコ

海底の岩や海藻などの模様のマネをしている為見つけるのが困難。他の地域のタコより柔らかく非常に食べやすい。



■クロナマコ

魚の排泄物などの有機物を砂と一緒に食べる。排泄物は綺麗な砂だけを出すので海のお掃除屋さんと言われている。ナマコの排泄物もビーチを形成している。

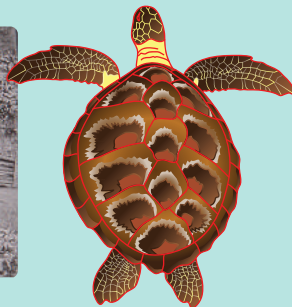
母島でのウミガメ観察

★アオウミガメ

小笠原の母島周辺は日本でも数少ないアオウミガメの繁殖地となっています。アオウミガメは、最大で甲羅の長さ 1.5m、重さ 300kg 以上にもなる大型のウミガメで、性格はおとなしく藻類を食べています。体内の脂肪が青っぽい色をしていることから、この名前がついたようです。古くから、小笠原の水産資源として郷土料理に用いられ、戦前の乱獲により一時その数が減少しました。現在では、単に漁獲対象とするだけでなく、積極的にアオウミガメの保護、調査研究も進められています。

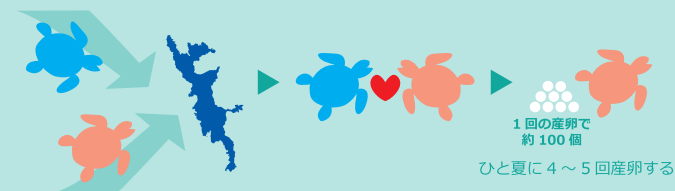


▲沖村海亀遺甲元豚園の様子【小笠原村教育委員会所蔵】



アオウミガメは絶滅危惧種に指定されている。

★母島のアオウミガメ



小笠原・母島の海では、春先にかけてアオウミガメが交尾のために長い旅から戻ってきます。交尾をしてから数ヵ月後、母ガメは砂浜に上陸し、約 100 個の卵を産みます。これを、ひと夏に 4~5 回繰り返します。

★母島ウミガメ産卵保護施設

脇浜なぎさ公園の漁港側に柵で囲った一角があります。2000 年から小笠原母島漁業協同組合が、獲ることだけでなく、増やしていくことを考え設置したウミガメ保護増殖施設です。夏の時期は母ガメの産卵や稚ガメのふ化を観察することができます。



★ウミガメ観察会

漁期に捕獲されたアオウミガメを、ウミガメ保護増殖施設内の生簀に囲います。ここには人工産卵場があり、産卵、ふ化の観察方法の説明と、実際にウミガメに触れられる観察会が開かれています。この貴重な機会に、ぜひ母島の自然に触れてみてはいかがでしょうか？

■観察会期間■

- ・5~7月：母ガメの産卵
- ・7~9月：稚ガメのふ化

ウミガメ観察会に参加ご希望の方は、クラブノア母島または母島観光協会にお問い合わせください。

クラブノア母島 ☎ 04998-3-2442

http://www.d2.dion.ne.jp/~noah_88/

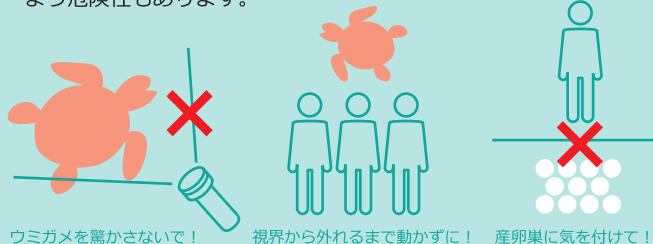
小笠原母島観光協会 ☎ 04998-3-2300

<http://www.hahajima.com/>



★小笠原村のウミガメウォッチングガイドライン

- ビーチでは懐中電灯などのライトは足元だけを照らすようにしましょう。海に向かって光を当てるとウミガメが驚き上陸を止めてしまうことがあります。
- ウミガメを驚かさずに産卵させる為、ウミガメの視界から外れるまで動かないようにしましょう。また、大きな声を出さないようにしましょう。
- 産卵巣には近づかないようにしましょう。産卵巣を掘ったり卵を探したりすることで、稚ガメが正しくふ化及び脱出できなくなってしまう。また、近づくことで脱出直前の巣を踏み抜いてしまう危険性もあります。



ウミガメを驚かさずに！

視界から外れるまで動かずに！

産卵巣に気を付けて！

海の有毒生物

自然豊かな島、母島。固有種も含め、多くの動植物が混在しています。その中には人体に影響のある有毒生物も存在しますので、十分な知識を持つ事が必要です。あなた次第では皆良き仲間となるでしょう。

■ヒョウモンダコ



10mm 少々的小型のタコ。茶褐色の縞模様が特徴ですが、驚くと青い輪紋や糸状紋が表れます。その美しさから持ち帰ろうとする人も多いようですが、咬まれると嘔吐や呼吸困難、痙攣等を起こし死亡する確率が高く、極めて危険です。

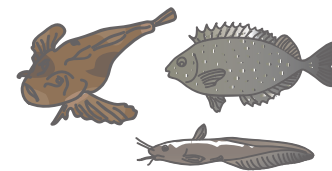


■ガンガゼ

小笠原にはこの種の毒ウニが多く、どこでも見かけます。トゲの先が刺さることにより毒が注入されます。素手で触ったり、踏みつけることの無い様、気を付けましょう。激痛と腫れを引き起こし、重症の場合には、筋肉麻痺や呼吸困難となる場合もあります。

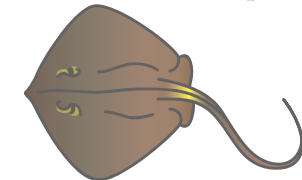
■ミノカサゴ・オコゼ・アイゴ・ゴンズイ等の魚類

カサゴ、オコゼ、ゴンズイ等は背ビレに毒トゲを持っています。傷を受けると麻痺や壊死等から死に至ることもあり、素手で触れる事の無い様十分な注意が必要です。



■エイ

アカエイの仲間は尾にトゲがあります。傷を受けてから暫くすると激しく痛み、腫れて赤紫色に変化します。手足の切断や死に至る場合もあります。



■イモガイ類の一部

イモガイ科の中で中大型の類で、中程が膨れて丸みを帯び、たる型をしています。毒は強く、激しい痛みと熱を伴い、意識不明から呼吸麻痺となり死亡率が非常に高いといわれています。手で持ち歩いたり裸足でサンゴ礁や岩礁付近を歩くことの無い様に注意しましょう。



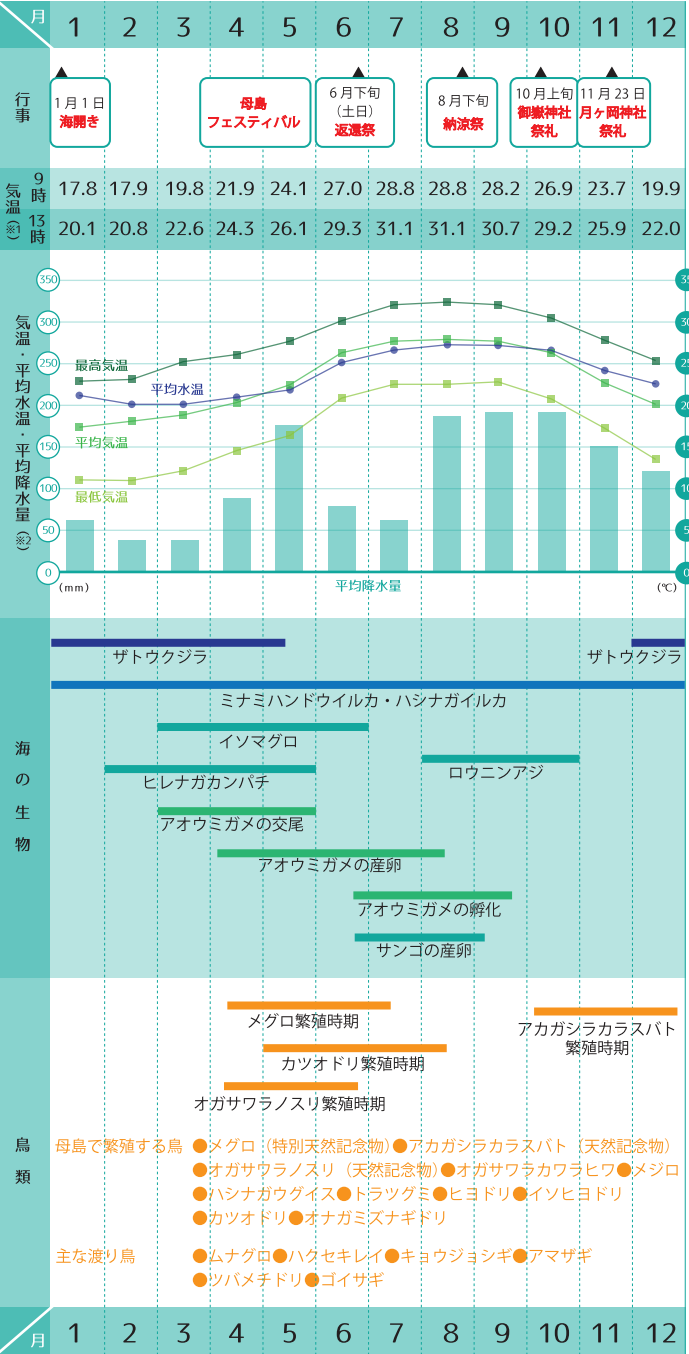
■カツオノエボシ（クラゲの一種）

美しい真青のクラゲで、海岸に打ち上げられたものを素手や足でさわった場合の被害が最も多く見られます。海上に長い触手を漂わせていることもありますので気を付けましょう。症状としては、ミミズ腫れ、水膨れとなり、嘔吐、呼吸困難から死に至ることもあります。

■ウミヘビ



縞模様のエラブウミヘビを代表としたウミヘビ類は猛毒を持ち、咬まれると大変危険です。しかし、非常におとなしく、頭部付近に触れなければ殆ど問題はありません。不用意に手を出さないようにしましょう。



※1 母島には気象台がないため、気温は乳房ダムにて9時と13時に計測した数値です。【平成27年4月1日現在】
※2 気温・平均水温は平成22年～平成27年の小笠原（父島）データ、平均降水量は平成22年～平成27年の母島データとなります。
注）その年の気象条件により海洋生物・鳥類の時期は変化します。



World Natural Heritage Ogasawara Islands
世界自然遺産 小笠原諸島

小笠原母島スノーケリングブック

